

平成29年度

境港市

第2回校区審議会

資料

平成29年6月22日(木)

平成29年度 境港市校区審議会（第2回）

日 時 平成29年6月22日

16時より

会 場 市役所第一会議室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 概要説明

4. 審 議

○学校規模と教育的課題等について

○次回審議会の内容について

5. その他

6. 閉 会

誠道小学校の現状と課題（教育課程・教育内容を中心にして）

1. 児童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	4	6(2)	3	2	10(1)	1	29
女子	2	6	3	5	0	8	24
計	6	12(2)	6	7	10(1)	9	53

() は特別支援学級の人数（外数）

3年生と4年生は複式学級を編成

2. 教育課程に係る取組（校長の学校経営方針より）

(1) 児童の課題意識と解決意欲を大切にしたい問題解決型授業の実施

- 問題解決型学習への転換（一斉授業からの脱皮）
- 結果を見通す力の育成
- 話し合う場の設定（しっかり伝える・考えながら聴く・聴いてわかろうとする）
- 試行錯誤の場面を大切に
- 思考ツールの効果的活用と表現方法の工夫
- 次時へつながるふり返り、確認

(2) 少人数のよさを活かした関わり方の工夫

- ホワイトボードや情報機器の効果的活用
- 対話的な学びの場の設定
- 教師の言葉がけを少なく
- 失敗を認める勇気、見守る忍耐力、乗り越えさせる支援

(3) 教科担任制の導入（3年生以上）と検証

- 得意分野を活かし、より深い指導、専門的な指導ができる
- 教師も児童も意欲が高まる
- 学級王国の回避、教師の意欲改革を図る
- 児童の多面的理解ができる

3. 少人数のよさ

- 教師の目がよく届くため、児童も比較的集中している
- 教師の指示もよく届き、個別の支援や学習の評価が比較的容易
- 実技や作業系の学習では、個別の支援が届き、少人数のよさが生きている
- 児童一人ひとりが発表したり、活動したりする機会が多い
- 10人前後の学級なら3～4グループができ、協働的な学びができている

4. 少人数の課題

- 教師と児童の1対1の対応になりやすい
- わからない児童への対応が比較的容易なため、細かな支援の場面が多く、児童の自己で課題解決する態度が弱い傾向が見受けられる
- 「先生、～ですか？」という教師への質問が多く、教師に依存する傾向が見られる。

- 人間関係がぎくしゃくした場合、教科指導やグループ学習等に難しさが出てくる可能性がある
- 6～7人の学級では、対話的、協働的な学びは難しい。学習方法に工夫が必要
- 複式学級の指導に難しさがあるため、指導について研究が必要

5. 学習における工夫等

- 各教室にホワイトボードを置き、児童の自主的・協働的な学びに取り組んでいる
- 人数が少ない中でもグループを作り、学び合いの場面を作り出している
- タブレットを活用し、画像を見せたり、実験を録画したりして学習に活かしている

6. 誠道小学校の現状と課題（まとめ）

誠道小学校は、校長先生のリーダーシップのもと、少人数を活かした指導や、3年生以上で教科担任制を取り入れるなど、学習指導において積極的に工夫改善に取り組まれている。

少人数であることから児童の様子がよくわかり、個別の支援がよく行き届いている。その反面、個別の支援が頻繁になると過支援になる傾向もあり、児童が教師に依存的になっている場面も見受けられる。

少人数である中でも、3～4のグループ（1グループ3～4人）を作り、学び合いの場面を作ったり、ホワイトボードを活用し、ホワイトボードを囲みながら児童が説明するなど、人数が少ない中でも指導法を工夫して互いに学び合う場面を作り出している。また、よくタブレットを活用し、グループ学習に役立てるなど、ICT機器も積極的に活用されていた。

児童数が10名程度であれば、最低数のグループを作ることができ、対話的な学び合いを行うことは可能であると感じた。実際に少ない人数ながらペア学習やグループ学習を取り入れている。しかし、年間に何回かグループ替え（班替え）はあると思うが、それほど多くの組み合わせができるわけではないので、児童同士が多様な考えに触れる機会は限られてくる。また、これが6年間続くという環境においては、児童がどのような育ちをしていくのかと考えたときに、少なくとも6年間で育てる子ども像を明確にもって指導することが重要であるように思う。

実技教科においては、児童一人ひとりの活動や実習に十分な支援ができるので、技能の習得には有利な場面が多い。また、教具などもほぼ個人で使うことができる。しかし、音楽や体育などでは、少人数のために合奏や団体競技等に制限が出てくる。国語、算数、理科、社会等の教科よりも、実技教科の方が課題が多いように感じる。

最も課題があると感じたのは、3・4年生の複式学級での指導である。現在学習指導においては、保健体育、道徳の時間、学級活動は合同であるが、他の教科は3年生と4年生とを分けて、単学年での学習指導を行っている。実質的には複式を解消した形であるが、単学年の指導となると6名および7名での学習になり、学び合いが難しく、多様な学習指導を行うことが困難である。個別の対応を増やせば自主性が育ちにくいし、ペアやグループ学習などの多様な形態も取りにくい。仮に合同で学習を行うとしても、「間

接指導」と「直接指導」を繰り返しながら指導することになり、教師の高い指導力が求められる。いずれにしても、今後も複式学級が続くのであれば、複式学級の効果的な学習指導の在り方についてはしっかりと研究していく必要があると感じた。

学級経営では、少人数のために教師を含めた親和的な学級づくりや学級の一体感は醸成されやすい。一方、人間関係が固定化されたり、トラブルが起こればその解消が難しくなったりすることもあり、教師もその部分については難しさを感じている。

これらの学習指導や学級経営については、指導方法や生徒指導について教師が研修を重ね、共通の実践を行うことでデメリットを克服し、メリットを伸ばしていくことは可能であると思われる。実際に、現在でも様々な工夫をしながら児童に力をつけようと努力されている様子が見える。その現在の学校経営の方向性においても、効果的な学習指導が行われるためには、やはり各学年で10人以上の人数は必要ではないかと思われる。



ホワイトボードに集まって学んでいる5年生算数の様子

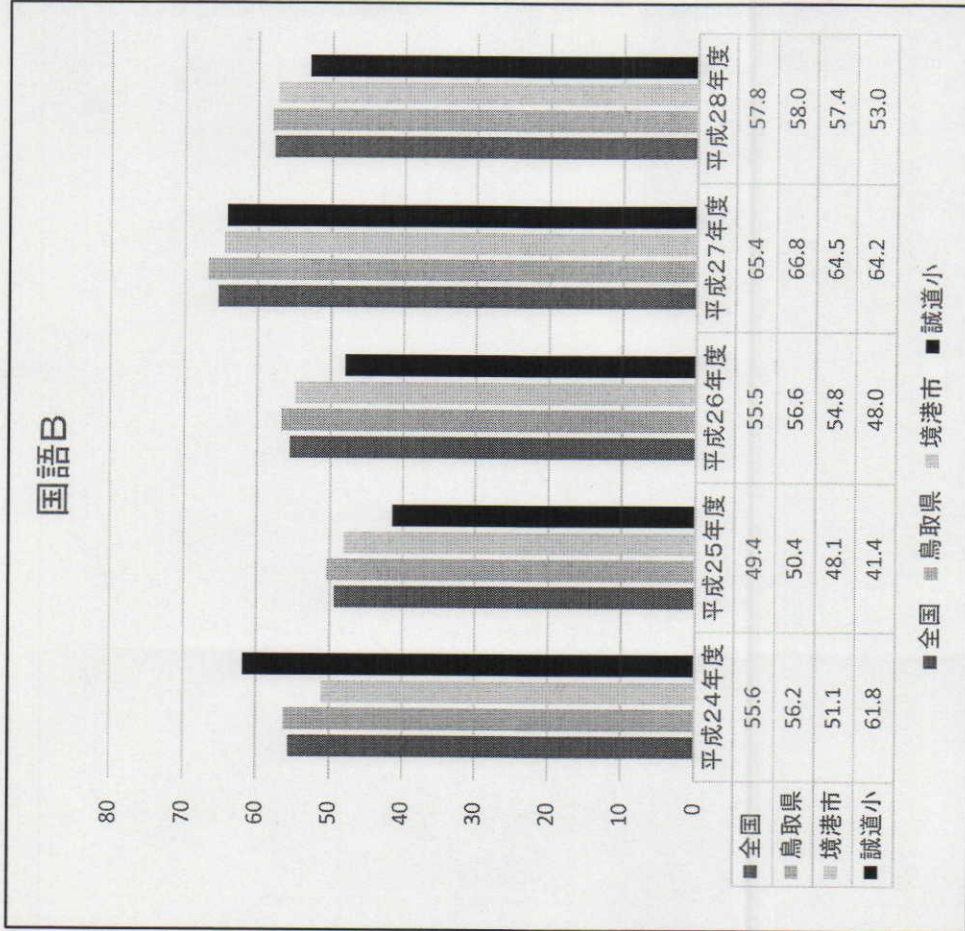
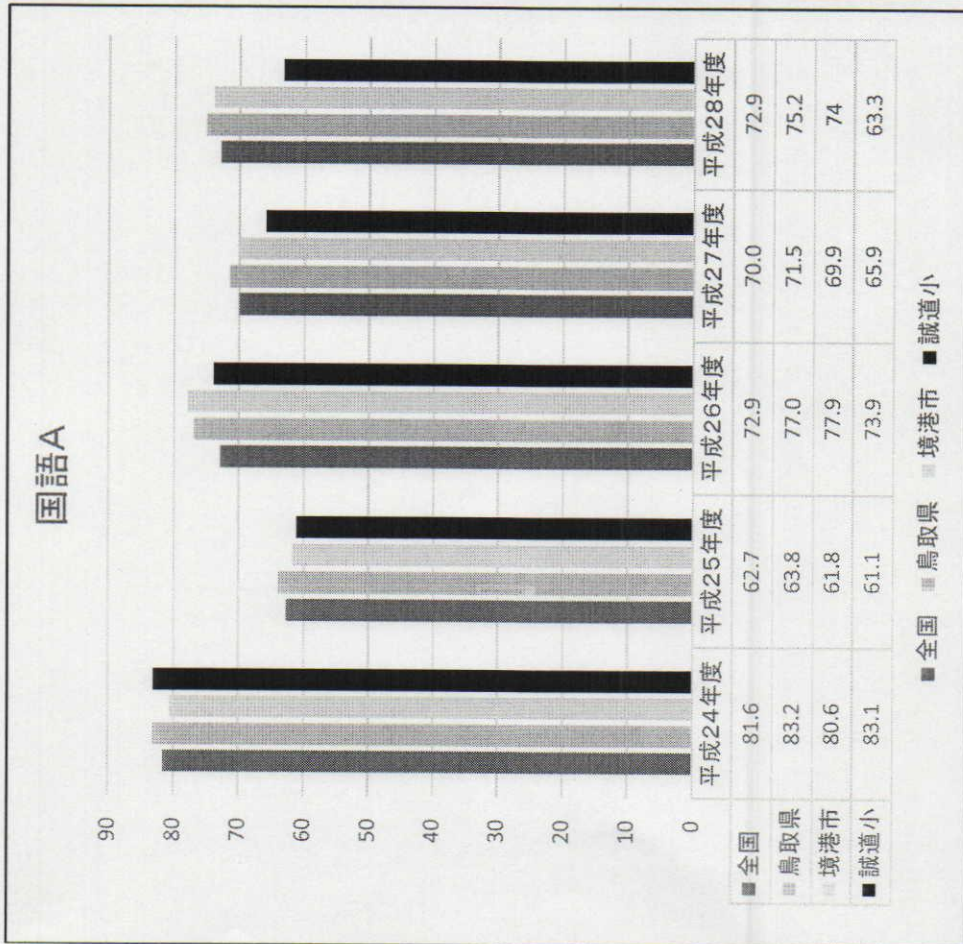


タブレットに実験の様子を録画し、実験結果をまとめている6年生理科の様子

1グループ4人で、それぞれの課題に取り組んでいる2年生国語の様子



平成24年度～28年度 全国学力学習状況調査：平均正答率の推移

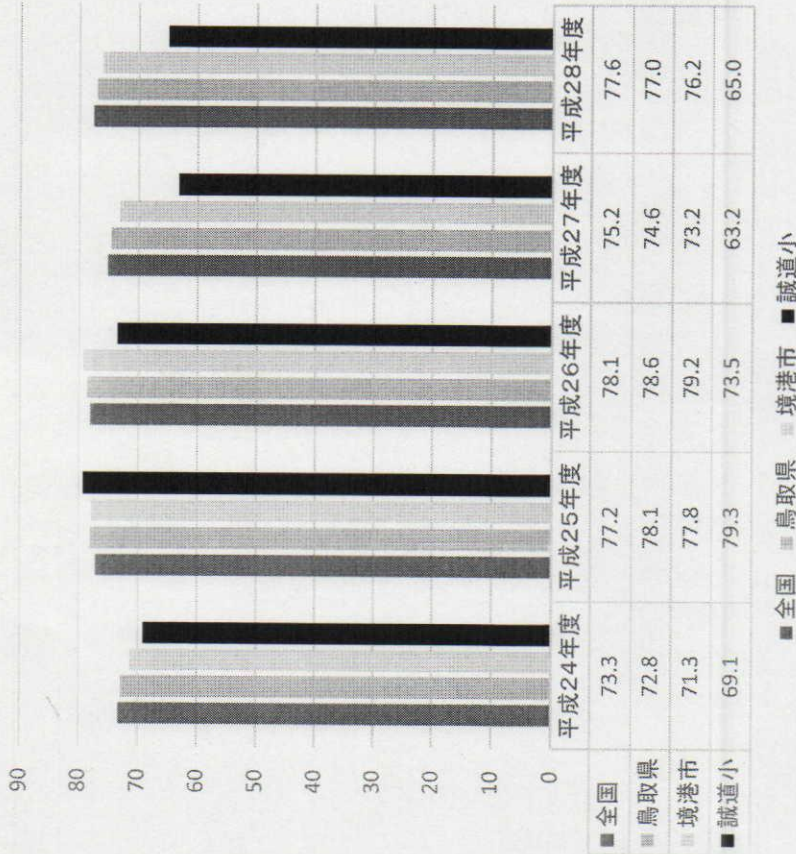


	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
誠道小受検児童数	15	14	12	9	10

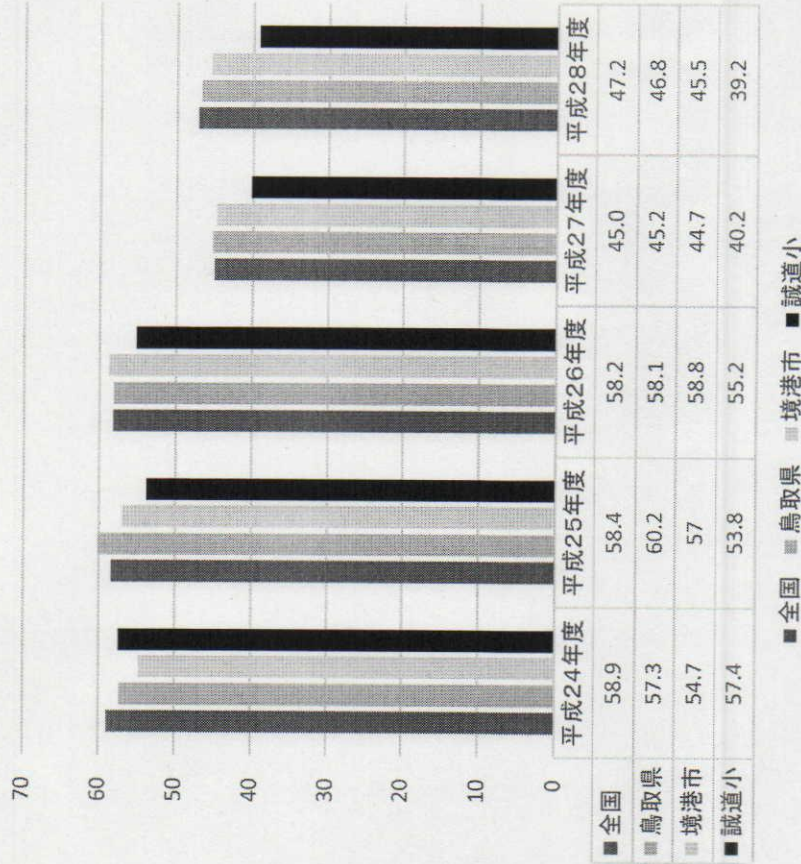
◆「国語A」については、平成24年度～26年度は、全国平均とほぼ同じか上であったが、平成27年度以降全国平均より下がってきている。

◆「国語B」については、その年ごとに傾向が異なっている。総じて「活用の力」が定着しているとは言えない。

算数A



算数B



	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
誠道小受検児童数	15	14	12	9	10

◆「算数A」については、平成24年度～26年度は、全国平均とほぼ同じか上であったが、平成27年度以降全国平均より下がってきている。
 ◆「算数B」についても、平成25年度以降全国平均より下がってきている。

◆誠道小学校は、検査を受けた児童数が少ないので、結果は個々の児童の習熟度に左右されやすい。
 ◆家庭学習の時間は、平日1～2時間が5人、1時間以内が5人、休日も1時間以上が5人、1時間未満が5人(H28年度)
 (境港市全体の平日の家庭学習:1～2時間が45.8%、休日の家庭学習:1～2時間が45.1% 誠道小が特に少ないわけではない)
 ◆平成27、28年度とも、家で学校の宿題を全員がやっているが、自主学習をやっている児童は、平成27年度は0人、平成28年度は4人

平成27年度、28年度 全国学力学習状況調査：児童質問紙の結果

- 選択肢
- ① 当てはまる
 - ② どちらかといえば、当てはまる
 - ③ どちらかといえば、当てはまらない
 - ④ 当てはまらない

平成27年度受検者：9人
平成28年度受検者：10人

(a)ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。

選択肢	①	②	③	④
平成27年度	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
平成28年度	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%

(b)難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。

選択肢	①	②	③	④
平成27年度	11.1%	44.4%	33.3%	11.1%
平成28年度	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%

前向きな子どもが多い

(c)自分には、よいところがあると思いますか。

選択肢	①	②	③	④
平成27年度	11.1%	11.1%	44.4%	33.3%
平成28年度	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%

自尊感情はやや低い

(d)学校に行くのは楽しいと思いますか。

選択肢	①	②	③	④
平成27年度	33.3%	44.4%	22.2%	0.0%
平成28年度	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%

学校生活に対する満足度が高い

(e)学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。

選択肢	①	②	③	④
平成27年度	33.3%	44.4%	11.1%	11.1%
平成28年度	20.0%	70.0%	0.0%	10.0%

(f)5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。

選択肢	①	②	③	④
平成27年度	44.4%	44.4%	11.1%	0.0%
平成28年度	50.0%	30.0%	20.0%	0.0%

(g)5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。

選択肢	①	②	③	④
平成27年度	44.4%	44.4%	11.1%	0.0%
平成28年度	40.0%	50.0%	0.0%	10.0%

対話的な活動が実践されている

(h)学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

選択肢	①	②	③	④
平成27年度	22.2%	0.0%	77.8%	0.0%
平成28年度	10.0%	70.0%	10.0%	10.0%

(i)授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。

選択肢	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
平成27年度	44.4%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	33.3%	11.1%
平成28年度	40.0%	0.0%	30.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%

① その場で先生に尋ねる (全国：16.1% 県：14.5%)

② 授業が終わってから先生に尋ねに行く

③ 友達に尋ねる

④ 家の人に尋ねる

⑤ 学習塾の先生(家庭教師も含む)に尋ねる

⑥ 自分で調べる

⑦ そのままにしておく

教師への依存が高い

誠道小学校 教職員アンケート集計

平成29年6月

これからの誠道小学校の在り方について審議が続いておりますが、現在の誠道小学校の状況について教職員の皆様のご意見を伺います。誠道小学校のよさや課題について感じておられること、また、取組の工夫等についてご記入ください。(空欄があっても結構です。)

1. 国、算、社、理、外国語活動の教科指導において

少人数であることによるよさ(メリット)	少人数であることによる課題(デメリット)	工夫していること(しようとしていること)
<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた取組ができる。 ・個々の児童の特性が分かり、個に応じた指導ができる。 ・机間指導が十分にできる。 ・短時間で集中し、課題解決ができれば、練習や発展問題に取り組める。 ・一人ひとりの実態が(理解しているかどうか、どういうところでつまづいているか等)よく見え、それに対応できる。 ・学習の理解の程度を把握しやすい。 ・発言の機会が多い。 ・一人ひとりに目が届きやすい。 ・全員発言、繰り返し発言する場が持てる。 ・全員の音読発表の時間が確保できる(国語) ・少人数で話し合いがしやすい(グループでなくても)。 ・少人数であることで、全員発言や協力し合った活動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えが出にくいこともある。 ・多様な意見が出ないときがある。 ・考えが広がらない。 ・理解力の高い子の意見や考えの影響を受けやすい。 ・教師がすぐに対応できる距離にいないので、「分からない」「できない」「どうすればいい?」という言葉が先に出てしまい、自力解決に向かいにくいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元構想や導入の工夫。 ・興味関心を引くようにしたい。 ・子どもの考えを交換する場を設けたり、子どもの考えをもとに学習をすすめたりすることを心がけている。 ・個別の関わりを確保する。 ・ペア学習を取り入れたり、タブレットを利用したりする。 ・グループ学習を取り入れている。 ・1単位時間ごとに、児童が興味を持って取り組める授業のために児童理解を深め、寄り添ったものになるよう教材研究をしようとして心にかけている。 ・話し合いを子どもにまかせてみたい。 ・ホワイトボードを囲んでの話し合い。 ・一人ひとりの子どもたちがどこでつまづいているかをとらえ、一つ一つクリアさせていこうと日々頑張っている。 ・校内研究で、協同学習を模索中。 ・ホワイトボード、タブレットの活用。 ・教科担任制の導入

2. 音、体、図、家庭(実技教科)の指導において

少人数であることによるよさ(メリット)	少人数であることによる課題(デメリット)	工夫していること(しようとしていること)
<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に指導できるので、技能が定着しやすい。 ・交互に表現したり(見合ったり)、考え合ったりすることができ、有意義に活動ができる。次への意欲にもつながる。 ・個の能力を的確に判断しやすい。また、個に応じた指導やアドバイスを1時間の中で何度もできる。 ・一人ひとりのその時間の評価と支援がしやすい。 ・運動量の多さ。 ・PCやタブレット、マシンなど一人一台使用できる。 ・水泳など順番待ちが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対他人という形で競争することは難しいので、自分を伸ばすのか過去の自分と比べる形で伸びることを意識させなければいけない。 ・音楽では、合奏する際に楽器に限られる。 ・慣れてくると、教師側も児童側も互いに距離が近くなりすぎることもある。その結果、自分から調べて活動するよりも受け身になり、「これでいいですか?」と言葉で確認してしまうことが多い。(子どもが待ちの姿勢になる。) ・序列ができてしまっていて、競い合う中で記録を伸ばすという意識が低い。 ・合奏をすると、一人一楽器となり、多人数でのダイナミックな合奏が経験できない。 ・苦手な子が目立つ。 ・多人数で行うゲームはできない。 ・競技そのものを行えないことがある。 ・チームスポーツに向かない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年合同の活動を取り入れる。 ・テンポのよい授業づくりを心がけている。児童が自ら見通しを持って活動できるよう順番を表示したり、時間を区切ったりするなど、授業の流れを止めない(だらだらしない)ように考えている。 ・伸ばせる点を多く見つけて指導する。 ・友達との関わりを多くする。 ・運動量を確保し、しっかりと体を動かせるようにしている。 ・1、2年での合同学習。

3. 道徳、学級活動において

少人数であることによるよさ(メリット)	少人数であることによる課題(デメリット)	工夫していること(しようとしていること)
<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに合わせた支援ができる。 発言の機会が多く、それぞれの考えや思いが捉えやすい。 全員が自分の思いを表現することができる。 全員の意見を生かすことができる。 一人ひとりが自分の存在価値を感じることができる。 お互いの考えを伝えやすい。 意見を出しやすい。 自分の個性を出しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級会では、特定の子どもの意見に引きずられる面がある。 多様な考えに触れにくい。 多様な考えが出ないことがある。 新しい考えが出てこない。 意見の数が少ない。 人間関係ができあがっている場合、自分の考えが他人につられてしまうことがある。 係活動等の数や内容に限られる。(学級活動) 	<ul style="list-style-type: none"> 思いが素直に表現できるようにする。 担任も積極的に関わってアイデアを出すこと。

4. 生活科・総合的な学習の時間の指導について

少人数であることによるよさ(メリット)	少人数であることによる課題(デメリット)	工夫していること(しようとしていること)
<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの活動を見て、必要な助言、支援を行うことがやりやすい。 個々の児童の様子を見取ることができ、それに応じた声かけや支援ができる。 話し合いが設定しやすく、すぐに活動に移せる。 個の意見を取り上げやすい。 フットワーク軽く活動することができる。 児童の希望にそった活動を仕組みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考え方を導き出せない時もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料をすぐに使えるように準備しておく。 図書館で行う。 一人ひとりの児童の思いや願いを大切に授業にすること。 幸朋苑との交流。

5. 学校行事等において

少人数であることによるよさ(メリット)	少人数であることによる課題(デメリット)	工夫していること(しようとしていること)
<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが責任感をもつ役割分担ができる。 責任を感じられるような役につけることができる。 活躍の場が、それぞれに与えられる。 一人ひとりの活躍の場面の確保ができる。 一人ひとりの存在が大きい(入学式、卒業式) 関わり方を明確にして取り組むことができる。 全員が顔見知りなので、チームがまとまりやすい。 異学年交流がスムーズ。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に小体連行事の参加が難しい(連合水泳大会、連合陸上大会等)。 連合水泳、連合陸上などの体育的行事では、他校に勝つことができない。 陸上大会、水泳大会が寂しい。 一人がやらなければならない役割が多く大変なときがある。 大会等では、出場選手の数も少なく、応援の迫力も他の学校と比べると弱い。 多人数であるような盛り上がり欠ける。 見た感じのダイナミックさに欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標、課題を明確にする。 個々がしっかり声を出したり意見を言ったりできるようにする。 縦のつながりを意識した活動。 個人内評価で見る。 親の応援団結成。

6. 学級経営について

少人数であることによるよさ(メリット)	少人数であることによる課題(デメリット)	工夫していること(しようとしていること)
<ul style="list-style-type: none"> 一人一役の係活動等、責任を持って自分の役割を果たそうとする思いが強い。 個人が輝く時間を設定しやすい。 実態把握がやりやすく、教師とのよい関係が築ける。 全員と毎日話ができる。児童一人ひとりの状況が把握できる。 一人ひとりとの関わりを深く持てること。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係が固定化されがちになる。 人間関係が固定化したときや、うまくいかないときに、子どもの逃げ場がない。 子ども同士のトラブルがあった場合逃げ場がなくなってしまう。居場所がなくなる。 集団の力が弱い。 一人の影響力の強い子に引っ張られやすい。 人間関係の固定化。トラブルの解決が難しい場合もある。 一度できあがった人間関係を変えにくいこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 工夫していること(しようとしていること) 各々の頑張りや成長をしっかり認めて褒めることで、自尊感情を高めると共に、お互いを大切な仲間だと認め合えるように心がけている。 役割が固定化しないようにする。 お互いのよさを知る活動や全員遊びを取り入れる。 教師と子ども一人ひとりではなく、子ども同士の関係や集団づくりを意識する。 子どもたちをしっかりと見守る。 担任が積極的に遊んだり関わったりすること。

7. その他、学校生活全般について

少人数であることによるよさ(メリット)	少人数であることによる課題(デメリット)	工夫していること(しようとしていること)
<ul style="list-style-type: none"> 異学年との交流(一緒に遊ぶ、活動する)が多い。 多人数の中での生活が苦手な子どもにとっては安心感があるのではないかと思う。 きめ細やかな視点で生徒指導ができる。 他学年の児童もよく知っていて仲がよい。 全校児童の顔と名前を覚え、深く関わられる。 学校に一体感が生まれる。 急な変更にも対応しやすい。 休憩時間など、自然に異学年交流ができています。 高学年になると、全員が責任を持ち、委員会の仕事に取り組める。 掃除一人あたりの面積が多い分、責任を持って掃除ができる。 おとなしい(寡黙)と言われていた子どもがのびのびと生活しているし、よく発表している。 保護者、地域の方の顔と名前がよく分かる。(協力的) 小さい集団で自信をつけることで社会性も育つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを言葉で伝えなくても周囲の人に伝わるようになるので、自分を表現することが課題。 いろいろな場面でそれぞれの教員が同じようなことを注意する可能性があるため、教員間で日頃から連携を取っていくことが必要である。 児童が教えてもらうのを待っている。 人数が少ないが、他校とやることは変わらないので、一人ひとりにかかる負担は大きい。(責任も重くなる) 掃除が行き届かない。 	<ul style="list-style-type: none"> 工夫していること(しようとしていること) 小さなことでも職員間で話題にするようにしている。 見守るが、なるべく口や手を出さない。 一人ひとりの子どもが、つらい思いをしないように声をかけたり見守ったりしている。 できるだけみんなで力を合わせて取り組むこと。 掃除は全児童全職員で頑張っている。 児童クラブとの連携。

8. 将来の誠道小学校の在り方について、ご意見等ありましたらご記入ください。

<ul style="list-style-type: none"> 他の校区からの児童を受け入れる。 いずれの方向に進むにしても、早めに決断していただきたい。教師側も子どもたちも、とても不安な気持ちで過ごしている。ゴールイメージを早く持ちたい。 空き教室を利用して、保育園を誠道小に作ってはどうか。(保小連携もできる。) 多人数の中で生活するのが苦手な子や、少人数でのきめ細やかな指導を望む子を受け入れる。(市内どこからでも)
--

誠道小学校 保護者アンケート

平成29年6月

○回答数 41

○質問：「小中一貫校となるまでのおよそ10年間の誠道小学校の在り方について」

選択肢と集計結果：
①今のまま存続を希望・・・27
②他の小学校と統合・・・2
③校区拡大・・・8
④その他・・・4

①「今のまま存続を希望」を選んだ理由

- 少人数のクラスで授業だけでなく、陸上競技、水泳や音楽など各行事すべてに参加できて、子どもの可能性を伸ばせるから。
- 誠道町内でも人数が少ないので、あえて外の学校に行かせる家が多いので、もっと誠道寄りの余子など、誠道にこだわらず、外の学校のように範囲を広げるなどして、なくすより残す方法を考えてほしい。
- 誠道小学校には愛着があります。他の小学校と統合で子どもを今より遠くに通わせるのは不安です。
- 教育にはお金をかけるべきだと思います。
- 子どもが希望しているので。
- 少人数ならではの教育がとてもいいからです。できないことも一対一で先生に教えてもらえるので、すごくいいです。
- 少人数でもみんな楽しく学校生活をしているので、少数なりに保護者、子どもが仲良くていいと思うので。
- 小中一貫校になるまで今のまま存続を望みます。設備も申し分ないですし、子ども達の環境も心配になります。
- 現在の1年生が義務教育が終わるまで、あと9年なるべく環境が変わることなく卒業させてあげたい。
- 子どもも保護者も存続を希望します。
- 少人数の教育にとっても魅力を感じているから。大勢の中で協調性を身に付けることも大切だとは思いますが、一人ひとりと向き合っ、お互いの個性を認め合うという経験ができることは、とても貴重だと思います。いろいろと事情があるだろうということとはわかりますが、私個人としては、今のまま存続を希望します。
- 誠道小学校の思い出は、親としては残してやりたいです。子どもが大人になって学校がないということはさびしいと思います。
- 少人数を生かした教育を続けてほしいです。

○少人数でも今の教育のやりかたは手も行き届きすばらしいと思う。アットホーム的でよい。

○少人数を生かした現在の学校運営を継続してもらいたい。

②「他の小学校と統合」を選んだ理由

○少人数の運動会や行事ごとは、他校と比べて盛り上がり欠ける。人数が多い方が競争心や社会性も育まれるのではないか。

○子どもが少なすぎるので、多い方がいいから。毎年PTA役員がしんどいから。

③「校区拡大」を選んだ理由

○校区が誠道町内は狭すぎる。行動範囲も狭いし、少しでも多くの友達と関わりを持ってほしい。友達が少なくてかわいそう（他の学校と比べると）。

○夕日ヶ丘や高松など、誠道小の方が近いから。

○明らかに誠道周辺の地域には、他の学校より誠道小へ通った方が近い方がおられると思います。新聞にあった誠道小だけ先駆けて小中一貫校にするというのもいい提案だと思いますので、それも議論されるといいなと思います。

○誠道町に住んでいる子どもしか通っていないので、他の町からも誠道小に行きたいという子どもたちがいると思うので、そこを自由に選べるようにしたらいいと思います。

○夕日ヶ丘など新しく家が建っている地域を通り越して中浜小に通っていますが、そのような校区の区切りを考えていく方がよいと思います。

○7校区の中にも児童が減少しているので、一度校区割を考えてみるのもよいのかと思います。

○廃校にするには、建物等の設備がもったいない。

○少人数ならではのアットホームな雰囲気や、目のいき届いた指導もよいのですが、記事にもあるように、男女の割合に偏りがあったり、集団行動の中で学べることも多いと思うので、もう少し生徒数は増えた方がいいと思う。しかし、誠道町としてのイベントや活性化という点で、他の小学校と統合となってしまうと、必然的に誠道町への参加が減っていき、淋しい感じになると思われるため。

○もう少し人数が増えてもいいと思う。せめて1学年10人以上はいたらいいなあ。

④その他

○子どもにとってどれがいいのか、考えれば考えるほど分からなくなります。少人数制のきめ細やかな教育には賛成ですが、特に3年生は、今年転校生が入ってきてくれて6人になりましたが、卒業するころには何人になるんだろうと常に不安です。中学校に入ったときに困るのではないかと思ったりします。でも今はとてもよくいただいているので、子どもも毎日楽しくのびのび学校生活を送っているのでよいのですが、正直分かりません。

○今のまま継続を希望が前提として、市営・県営団地が多い中、収入超過だったり、居

宅の広さだっただりの問題で、退居せざるを得ない子育て世代が多くいるために、必然的に生徒数の減少につながってきていると思います。取り組む上で困難なのは理解していますが、誠道町内の県営・市営団地に現在住んでいる人々を一カ所に集約して、県・市が持っている土地を宅地分譲するとよいと思います。(永住定着が見込める) 実際、私の家庭も誠道町内で新居を構えようと思いましたが、分譲地がなく、夕日ヶ丘に新築をしました。

○10年間は長いので、誠道小のことだけでなく、境港市として10年後の小中一貫校にするための明確なプランを掲げてくれば、保護者もそれに合わせて準備ができるのではないのでしょうか。予定外のことが起こると、保護者も子どもも不安になります。教育するにあたって一番よいプランを立ててほしいと思います。10年間は移行期間という気持ちで、保護者も準備していけるとと思います。その中に、○年後に誠道小がなくなるとわかれば、そのつもりで入学等考えられると思います。

○添付資料だけでは、3案それぞれのメリット、デメリットがわからないので、現時点でどの案がよいのか選べません。

ご意見・提案・アイデアなど

○他の小学校(余子小学校)へ行かせることを思うと、近くにある第二中と一緒にしてもらえる方がいいと思います。

○誠道町は、若い方が住むようなアパートや、一軒家を建てたりする土地があまりないように思います。おしゃれなアパートなどあれば、若い方が住みやすいのではないかと思います。今、中浜保育園に通わせている子どもがいます。誠道小学校がなくなってしまうと、余子、中浜に子どもたちが分裂してしまうと思います。10年後の小中一貫まで存続してほしいです。

○小学校内に保育園を作って、誠道小校区内で保育園から小学校卒業まで子どもを育てる環境を整備してほしい。PTAで誠道小の在り方について話し合う機会を作って、それぞれの選択肢がどんなメリットやデメリットがあるのか検討する場を設けてもいいと思う。

○本当に10年後に小中一貫校になるのでしょうか?そこが確定していないのであれば、今後の在り方について考えるのは難しいです。上記のどの方法をとったとしても、誰かしらに何かしらの負担がかかります。もし、本当に10年後に小中一貫となるのであれば、その時に一斉に体制を変えるというのが一番皆に平等で負担がないのではないのでしょうか。それまでの10年間、誠道小にある程度の人数の子ども達が入学してくるのでしょうか?校区内に子どもはいても、校区外申請をされれば、それもわかりません。勉強に関しては、少人数である誠道小は、先生方が細かく子ども達を見てくださり、本当によい環境だと思います。ですが、人間関係の構築など、ある程度の人数がいないと難しいところがあるのも事実です。ですが、不可能であるならば今のままだを存続してもらい、10年後に一斉に変えることが一番皆が納得でき、負担が少なくできるのではないかと思います。誠道小だけ他の小学校と統合することは、子どもの負担を考え一番やってもらいたくないです。皆が平等で、子ども達の一番負担が少ない方法をお願いします。